

ムジンバ県における地域活性化に向けた農民自立支援プロジェクト（第3フェーズ）
開始までに至る主な活動写真

●第1フェーズ（2009.8-2010.8）



①
アブラナの定植法の研修を行うプロジェクト日本人スタッフ（右）。当時は初期段階としてプロジェクト側が直接、農業技術の研修を行っていた。

【第1フェーズ /2009年】



②
ニンニク栽培農家のエリングス=テヤさん。プロジェクトによる栽培技術研修で、「堆肥のみで生産できる方法」を実践し、質の良いニンニクを生産できた。通常のマーケットより倍以上の価格で都市部のホテルに売る販路を開拓した。

【第1フェーズ /2010年】



③
伝達農家を対象にした研修。“コミュニケーションとネットワーキングについて”のトピックをプロジェクト日本人スタッフが講師担当を務めた。伝達農家委員会結成の意義の大きさとその有効活用について説明を行った。

【第1フェーズ /2009年】



④
伝達農家委員会の展示圃場にてトマト定植法のデモンストレーションを行う伝達農家キングスレイ=ピリさん（中央）。伝達農家同士がお互いの技術を共有し合う場が出来あがってきた。

【第1フェーズ /2010年】

●第2フェーズ(2010.10-2011.11)



⑤ 新規対象地域であるサムソン・カマンガ村の農家に対し、伝達農家（左）が実施した堆肥作りの研修。自身の成功と失敗経験を交えて堆肥作りのコツを教えている。

【第2フェーズ／2011年】



⑥ 新規対象地域の農家を訪問し、自分の記録ノートを見せて内容を説明する伝達農家（右）。記録の付け方など農業経営管理に関する知識は、プロジェクトが実施した研修を通じて習得した。

【第2フェーズ／2011年】



⑦ プロジェクト手法の普及を纏めた「ファシリテーション・マニュアル」のドラフト版を用いて、実際に農民グループに対して試行した風景。日本人専門家(写真奥)も同行し、マニュアルの内容と実際の反応について確認作業を行った。

【第2フェーズ／2011年】



⑧ 政府農業普及員（右中央）が農民に対して行う研修。JOCAのプロジェクトコンセプトを理解し、ファシリテーターとしての力を備え始めた政府農業普及員の育成は、他地域への普及における重要なアクターとして、第3フェーズで更なる強化を図ることとしている。

【第2フェーズ／2011年】